

ある日の育児日記から (39) 佐藤 和代

この夏、圭は、五メートルほど泳げるようになりました。水泳好きのお父さんにくつついて、毎週プールへ通っていた成果です。

夏のはじめ、保育園のおたより帳にこんなことが書いてありました。

「きょうからプールが始まりました。けいちゃんは、まっさきにとびこんで、もぐってみせてくれました。けいちゃんにできるなら、とMちゃんやTちゃんまでもぐれるようになりました」

なるほどね、と笑ってしまいました。圭は、私に似てニブイほう。たいていの遊びは、皆より遅



れてできるようになりま
す。ジムに登るのも、プ
ランコも、三輪車もそう
でした。ですから「けい
ちゃんにできるなら…」

というのには納得。泳ぐのなんて簡単、と皆に思
わせるあたり、ニブイのも役に立つのですね。

そして私としては、スイミングクラブでも保育
園でもなく、お父さんと遊んでいて泳げるようにな
ったことが、何だかうれしいのです。何でも学
校や各種スクールで教わるのがあたりまえのよう
な時代ですから。

もっともお父さんは「足
がつかないプールだろ、い
やおうなく抱きついてくる
のがうれしくてね」…と
言っていたっけな。泳げ
ないほうがよかった？

